



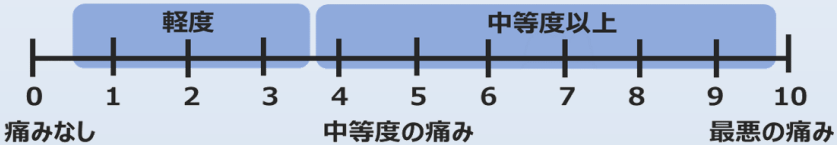
がんの緩和ケア処方マニュアル

～がん患者が痛みを訴えた時の処方・初めの一歩編～

1 痛みの原因・強さをアセスメント

- 痛みの原因ががん由来のものか、がん以外によるものか評価する
(例：変形性関節症▶整形外科的な治療、腸閉塞の痛み▶腸閉塞の治療など)
- がん由来の場合、持続痛か突出痛（体動時痛、発作的な痛み）か評価する

痛みの評価スケール NRS (Numerical Rating Scale)

- 痛みの強さを評価する ▶ 

2 がんによる持続痛で、軽度の場合 (NRS 3以下)

- 消化性潰瘍の既往、腎機能障害、血小板減少のいずれかがある

処方例*

アセトアミノフェン(カロナール®) 1回500mg～1000mg 1日3～4回
▶ 痛い時(レスキュー薬)：ヒドロモルフォン塩酸塩(ナルラピド®)1mg
▶ 便秘時：緩下薬を使用

- 消化性潰瘍の既往、腎機能障害、血小板減少はない

処方例*

セレコキシブ(セレコックス®)2錠 分2
エソメプラゾールマグネシウム水和物(ネキシウム®)1C 分1
▶ 痛い時(レスキュー薬)：ナルラピド 1mg
▶ 便秘時：緩下薬を使用

* カロナール・セレコックスのいずれかで効果が不十分な場合は、併用可。効果不十分ならオピオイド導入

3 がんによる持続痛で、中等度以上の場合 (NRS 4以上)

処方例*¹

ヒドロモルフォン塩酸塩徐放錠(ナルサス®)*² 2mg 20時内服(最も低用量のオピオイド徐放製剤)
ナルデメジントシル酸塩(スインプロイク®)0.2mg 朝1回(便秘予防：初回はナルサス内服前)
▶ 痛い時(レスキュー薬)：ナルラピド 1mg
▶ 悪心時：ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン(トラベルミン® 配合錠)1錠
▶ 悪心持続時：トラベルミンを1回1錠 1日3回
▶ 緩和しない時：ミルタザピン(リフレックス®)15mg 0.25錠 眠前1回
(トラベルミンは併用・中止どちらでも可)
▶ 便秘時：リナクロチド(リンゼス®)0.25mg 朝食前

*1 カロナール・セレコックスは、継続・中止どちらでも可
ただし、NSAIDsの長期投与は避ける(消化性潰瘍・腎毒性のリスク有)

*2 ترامドール塩酸塩(トラマール®)でも代用可

4 がんによる発作的な痛みで、中等度以上の場合(NRS 4以上)

処方例

レスキュー薬：ナルラピド 1mg
▶ 定期的に使用するようになれば、処方例3のナルサスを開始する

※薬名は一般名(主な商品名)を記載しております。

※より詳しくがんの緩和ケアの処方を知りたい方は、埼玉県立がんセンター緩和処方マニュアル(院内用)を御覧ください。▶

